

平成20年度の研究交流目標

平成20年度は立命館大学がハブとなって形成してきたベトナム（ハノイ師範大学およびホーチミン師範大学）との研究を融合させることを研究交流目標としたい。

具体的には、平成20年8月18日～24日（予定；ベトナム：ホーチミン市）に開催される第17回日本ベトナム友好障害児教育・福祉セミナーに、中国側代表者（黄辛隠教授：蘇州大学）他1名、日本側代表者（荒木穂積教授：立命館大学）他4名を派遣し、3か国の研究交流を深める。同セミナーは17年間の歴史をもち、日本とベトナムの現場の教師、研究者、学生が実践・研究の交流をすることを目的としている。このセミナーには本事業の共同研究者や協力研究者の数多くが参加する予定である。派遣チームは、派遣期間前半はホーチミン市での同セミナーに参加する。また、協力機関であるヤーディン障害児学校（Vo Tho Khoai 校長：協力研究者）を訪問し、ベトナムの発達障害児の早期教育の実際を学ぶ。派遣期間後半はハノイに移動してベトナム側代表者（Nguyen Thi Hoang Yen ハノイ師範大学障害児教育学科長）と3か国の代表者他の研究交流をはかる。あわせて共同研究、セミナーの打ち合わせを行う。

平成20年11月に第1回「東アジア発達障害児の治療教育プログラム開発に関するセミナー」を開催する（立命館大学、予定）。ここでは、発達障害児の早期発見・早期対応の現状、各国で実施されている発達障害児の治療教育プログラム開発について研究交流を深める。あわせて、発達障害児の教育ニーズおよび家族調査の共同研究の打ち合わせを行い、国際共同研究をスタートさせる。予備調査は11月から2月として、予備調査結果を第2回セミナーで報告する（第1回セミナーは、平成20年11月7日～9日または11月28日～30日の3日間を予定）。

平成21年2月または3月に第2回セミナーを日本（京都市）で開催する。ここでは、予備調査結果をもちより、本調査に向けた項目の修正、集計方法、分析方法など研究のすすめ方について検討する。また、日本側研究協力機関である京都市発達障害者支援センターを訪問し発達支援の実際を学ぶ。（平成21年2月22日～26日または3月6日～10日の5日間を予定）。

平成20年度の日本で開催されるセミナーへは、日本開催であるので日本側の共同研究者、協力研究者が中心となってベトナム、中国の研究者との研究交流をはかっていきたい。関係者や若手研究者の参加を積極的に求めていきたい。